



地域学校協働活動だより

令和7年1月14日発行 福島県教育庁県北教育事務所

地域の民俗芸能を子どもたちに伝える

訪問日：令和6年11月6日（水）

場 所：大玉村立玉井小学校

内 容：第5学年 総合的な学習の時間「本揃田植え踊り」での学習支援ボランティア



玉井小学校の5年生は、学習発表会で地域の民俗芸能「本揃田植え踊り（もとぞろたうえおどり）」の発表を毎年行っています。訪問した日は、衣装を着て、体育館で練習を行う日でした。

衣装の着付けでは、地元美容師さんが中心となって学校支援ボランティア、保護者の協力により、子ども1人に大人複数で着付けをしていきます。色鮮やかな装束を身にまとい、子どもたちはとてもうれしそうな様子でした。

その後、体育館で踊りの練習をしました。この踊りは田植えの始めから終わりまでが表現されていて、「久六（きゅうろく）」「早乙女（さおとめ）」「奴（やつこ）」「ひよっこ」「きつね」「おはやし（太鼓、篠笛）」「唄」の役があります。保存会の方々が、子どもたちの踊りや歌、口上を温かく見つめ、細かい動きなど丁寧に教えていました。子どもたちは、真剣なまなざしで話を聞いていました。



【児童の声】

昔の人の気持ちになり、伝統を大切にしようと思いました。昔の言葉の言い回しなどわからないことを保存会の人にわかりやすく教えてもらいました。

【学習支援ボランティアの声】

子どもたちの学習発表会のお手伝いできてうれしいです。いろいろな人との出会いと交流が楽しいです。

【保存会の方の声】

伝統を受け継ぐ人がいるのがうれしいです。後継者が少ない中で、民俗芸能に光を当てることができました。伝統の重みについて村全体に理解が広がってきました。

【保護者の声】

地域の方に手伝ってもらっていて、大変ありがたいです。

【教職員の声】

子どもたちが、保存会や地域の方の「本揃田植え踊り」を大切にしているのを感じる事ができました。



この活動は、地域の保存会、学校支援ボランティア、保護者が関わっています。子どもたちは、多くの人との関わりの中で、地域の民俗芸能を体験し、ふるさとの大切さを学んでいます。保護者も学校支援に関わることで、地域の伝統への理解が深まっています。